

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100570	事業の開始年月日	令和2年10月1日
		指定年月日	令和2年10月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム		
所在地	(〒233-0007)		
	横浜市長南区大久保3丁目38-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年2月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

横浜の中心部に位置し、横浜横須賀道路の別所インターから車で5分という好立地に恵まれた閑静な住宅街の中に開設し、16年目を迎えようとしています。地域との結びつきも固く、町内の催し物や学校行事等にもご招待頂いております。（2020年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止）正に地域と共に歩み、地域の中に存在し、地域の方にも受け入れられているホームです。

ご自宅の様にゆっくり寛いで過ごして頂きたいと考え、起床時間や就寝時間は特に設けず、ご希望の方はお昼寝もして頂いております。これまでのご生活を尊重し、無理のない範囲でお掃除や食器拭き等のお手伝いをお願いしたり、立位が出来ない方へも洗濯物畳みや新聞折をお願いし、役割を持って頂くことにより、必要とされているという実感を得て頂けるよう支援を行っております。

また、ご入居に際しては、介護度で選ぶことなく特にお困りのご家族様のお力になれるよう、親身になってご相談にのらせて頂いており、最期の時をホームで迎えたいとご希望されるご家族様には医師、看護師、歯科医師と連携を図りながらご対応をさせて頂いております。ご家族様、ご本人様、スタッフが共に安心して笑顔で過ごすことが出来るよう、適宜カンファレンスを開いたり、医師との面談も行いながら、お客様の毎日を支えています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年1月11日	評価機関 評価決定日	令和4年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、京浜急行線「上大岡」駅下車、神奈中バス11番乗り場より全系統「普門院前」下車 徒歩約7分の閑静な住宅地にあります。地域に根差し、近隣と良好な関係を築き開設16年を迎えています。

<優れている点>

管理者は、朝、夕、個別に職員に声掛けし、日頃からコミュニケーションを図り意見や要望を聞くと共に相談に乗り、また、毎朝利用者にも声掛けし良好な職場環境を作っています。職員の定着率も良く、3年以上のグループホーム介護経験者が大多数を占めており、利用者と馴染みの関係を築き家族の信頼を得、チームワーク良く利用者支援に当たっています。事業所運営においては、全職員が参加する「衛生」「レクリエーション」「身体拘束・虐待防止」「感染対策」などの各種委員会、「緊急対策チーム」が機能し、運営に反映させています。常勤・非常勤を問わず全職員にスマートフォンやタブレットで視聴できるeラーニング（インターネットを利用した学習形態）研修を実施し、職員のスキルアップを図っています。

<工夫点>

緊急時対応の為、緊急時個人情報ファイルを整備しています。「個人情報マニュアル、緊急時対応マニュアル、訪問看護連絡先、病院連絡先、救急医療情報」などを明確化しています。特に、「救急医療情報」は、救急車対応のため、本人の「氏名、医療情報、緊急連絡先、救急隊への申し送り事項」等の記載をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム
ユニット名	せせらぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ツクイ横浜大久保グループホームの基本理念に載せている。毎朝の朝礼にて、スタッフと読み上げている。	令和2年に職員と共に新たな事業所理念を作り上げています。事業所内に掲示し、毎朝の朝礼で読み上げ周知しています。利用者の尊厳を守り、言葉がけ一つひとつに注意を払った支援を心掛けています。新入職員には新人研修時に理念を説明し理解を得ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	通勤時などに、必ずご挨拶をしている。コロナ感染症が流行前は、夏祭りや、秋の運動会などに参加させて頂いていた。	開設時より自治会に加入し、地域と良好な関係を築いています。コロナ禍前は地域の夏祭りや運動会に参加したり、手品やフラダンス、絵本作りなどのボランティアが来訪し交流しています。また、事業所の避難訓練では地域の人々の協力を得て実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	少し前には、ご近所様から施設に来て、ご相談に来ることもあったり、夏祭りのお手伝いなどに参加したときなどにも、雑談の中で聞かれる事もあったが、コロナ感染症が流行そういった事が、なくなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ感染症が流行前は、運営推進会議は、行っていたが、最近は行っていない。お手紙を進捗状況などのお知らせのみ行っている。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催とし2ヶ月に1回、定期的に開催しています。議事録は、行政には直接持参し、他のメンバーには郵送しています。コロナ禍前は同様な期間で実施し、事業所の活動報告や意見交換を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議への参加促しを行っていたが、新型コロナウイルス感染症が流行してからは書面開催が続いており、それでも議事録を必ず区役所窓口へ届けるように留意している。	管理者が、運営推進会議の議事録を直接行政に持参し、コミュニケーションを図り、良好な関係づくりに努めています。コロナ禍で現在は中止していますが、以前には介護相談員の来訪を受け入れ協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	月に1度の研修の中にカリキュラムとしても行っていない。施設内にも高齢者虐待防止・拘束委員会などもあり、月に1度開催される。内容は周知するために、必ず回覧でスタッフに見てもらっている。	身体拘束禁止に関する指針を整備し、身体拘束等適正化委員会を2ヶ月ごとに開催しています。年2回研修を実施し職員への周知を図り、身体拘束等をしない支援に取り組んでいます。スピーチロックについてミーティングで話し合い、言葉遣いに注意を払っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法・拘束は、月に1度研修カリキュラムにあり、必ず行っている。また、施設内にも高齢者虐待防止・拘束委員会などもあり、月に1度開催される。内容は周知するために、必ず回覧でスタッフに見てもらっている。	虐待防止に関する指針を整備し、虐待防止委員会を2ヶ月ごとに開催しています。年2回研修を実施し、高齢者虐待防止法を学び理解を深めています。年2回、虐待チェックシートを活用し職員の意識向上を図り虐待防止、不適切ケアの防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	マニュアルを整備し、閲覧可能な場所に置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をかけて説明を行っている。解約や改定時にもしつかり説明を行い、分からないことや、疑問に思ったことなどに対しても、電話対応も行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱などを設置して対応を行っている。	ケアプラン変更時に意見などを聴き、毎月送付する家族への手紙で本人の様子を伝え、家族の面会時に意見などを直接聞く機会を設けています。また、意見や要望を直接管理者に伝えられるよう管理者の携帯電話番号を家族に知らせ、24時間対応としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度の全体会議などで、スタッフの意見を聞く場所を作ったり、管理者が年に1～2度面談を行い対応をしている。	管理者は、日頃から意見や要望を聞くと共に、ユニット会議で意見や提案などを協議し、運営に反映させています。また、年に数回、個別面談を実施しています。衛生委員会を始めとし、全職員が参加する各種委員会が活動し、事業所運営に活かしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談等にて意見の聴取及び研修等への働きかけ、資格取得の支援を行っている。	管理者は定期的な人事考課や職員面談を実施し、この先どうしたいのか職員それぞれの将来展望を把握し、支援しています。正社員希望者には推薦支援をしています。本部長やエリアマネージャーが来訪し、職員と話し合う機会を設けています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの経験等を考慮した上で各種研修等に参加を促している。	年間研修計画に基づき、全職員に研修を実施し研修記録を整備し閲覧出来るようにしています。今年度4月より法人運営動画研修サイトの「イーケアラボ」が始まり、全職員が800本以上の研修動画をスマートフォンやタブレットで視聴できる環境を整え、資質向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス感染症流行において、外部との交流が途絶えている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に必ず自宅にてご本人と面談を行い、どのような生活を送っていたのか等を把握し、今後の望む生活の構築と一緒に考えている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学時より、詳細な聞き取りや、困っていること、不安なことなどの聞き取りを行い、ご家族様が安心して任せて頂けるよう、聞き取りを丁寧に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に際し、可能な限りご本人様にも了承してご入居を進めて頂いているが、実際は認知症状が重度の方が多いため、ご本人様からのご希望が聞けることは少ないが、可能な限り聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に生活し、お互いを必要としている実感を持って頂けるよう、お手伝いのお願いや感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報の共有や、ケアプラン作成の際の希望等を聞き取りながら信頼関係の構築に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話の取次ぎや手紙の受け渡し等を行う際には『〇〇さんですよ、どなたですか？』等、記憶に呼びかける対応を行っている。	コロナ禍で馴染みの人との面会はガラス越し対面としています。コロナ禍前は外出や外食、墓参りなどへ出掛けてます。本人の希望に応じ電話の取次ぎや手紙の受け渡しの支援を行っています。生け花や抹茶立て、編み物など、趣味や習い事等の継続支援も行っていきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	適宜席替えを行いながら相性を見たり、スタッフが介入しながら他者との関係の構築を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去の際にも何かあればいつでも連絡をしてほしい旨伝え、ご逝去されたご家族の方に対してはお線香を送るなど感謝の気持ちを伝えている。そのせいか退去後もお顔を見せて下さるご家族も数名いらっしゃる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中から嗜好の把握を行ったり、過去の暮らしからヒントを得ながら検討を行っている。	入居時に自宅や病院等でヒヤリングし、アセスメントシートなどにまとめ、積み上げています。特に家族の困りごとの相談を重要視しています。生活歴や特技、できることの情報が大切であり、本人から話を聞けない場合は家族から様子を聞き支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初回面談時にご家族様はご本人様からの聞き取りを行うと共に、入居後もご家族様御面会時などに聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの身体状況や年齢、既往、生活歴などをベースに画一化されないケアを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフによる居室担当制を設け、じっくりと向き合いながら課題等の検討を行い、実現可能なケアプランを作成している。	居室担当者が日々のケアについての課題を把握し、カンファレンスでモニタリングを実施し、ケアプランに反映させ、現状に即したケアプランを作成しています。家族や本人の要望や意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットを活用し、他のフロアのスタッフも閲覧可能な状態で、施設一丸となり情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外泊や外出は新型コロナウイルス感染症の状況を見て対応、ご面会についても面会時間は現在15分以内としているが、感染症流行前は24時間体制で行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染症流行前までは、運営推進会議に民生委員、自治会長、町内会長、ケアプラザの職員等を招き、積極的に意見交換・情報交換を行っていた。感染流行後は書面開催となっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医とは、訪問診療以外にも随時伝エア連絡にて相談等を行い、連携を図っている。また、希望により医師、ご家族との面談も適宜行っている。	受診は本人の希望を取り入れていきます。訪問医の往診が月2回あり、薬剤師も同行しています。訪問看護師が毎週利用者の健康管理をし、訪問医と相談、適切な措置をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師は24時間体制にて連携を図っており、看護師往診前には連絡事項をfaxし、往診中も必ずスタッフが付き添いながら状態の説明を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師による迅速なサマリー発行にて入院先へ情報の送致を行っている。また、入院先の担当者とも電話連絡を密にとりながら状況の把握を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医が終末期であると判断した際には速やかに医師より連絡し、面談の場を設け、管理者及び計画作成担当者同席のもと、今後についてご家族様の望みを考慮し支援に取り組んでいる。	看取りの経験があり、研修も行っていきます。入居時に事前意思確認を行っています。看取りに入ると、関係者で話し合い、本人が過ごしやすいケアプランを作り、終末期を迎えるようにしています。逝去後も、職員から思いを込めた便りを出しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修やカンファレンスにより対応方法等の実践を行っている。また、マニュアルも整備されている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事務所内に広域避難場所の掲示を行っており、全スタッフに周知を行っている。また、有事の際には地域の方の役割等も分担できている。	コロナ禍で近隣の協力を得た避難訓練は避け、職員と利用者で年2回、ユニットごとに行っています。夜間想定で指定の場所まで避難しています。車いす使用の人も多く、シーツ利用の避難方法の体験も実施しています。新人職員は火災報知器の取り扱いも確認しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修や面談を適宜行い、認知症を学ぶと共に人として向き合い、人生の先輩として尊敬を守り、生活を継続できるよう教育を行っている。	朝は管理者の一人ひとりへの挨拶から始まり、互いの心が通じ合う言葉かけを常に心掛けています。人生の先輩として、その経験を教えてもらう姿勢で努めています。生け花や抹茶立てなどの特技を、日常生活に取り入れ継続支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	これまでの生活歴を尊重しながらご本人様やご家族様から聞き取りを行い、お客様主体の生活が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	声をかけながらその日その時の気持ちを汲み取り、決して無理強いすることなく柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お持ちいただいた衣類の取り扱いには十分気を付け、更衣や入浴の際にはどれを着たいか、等コミュニケーションの一つとして実行している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	席に座って行える盛り付けや食器拭き等、スタッフが一緒に行えるよう留意している。	法人は「食」の取り組みに注力しており、献立の作成、材料の調達をしています。手作りの基本食と既往の調理品があります。希望によりパン食も選べ、行事食も提供しています。楽しい雰囲気です。食事がとれるよう声掛けなどにも工夫しています。検食を実施し、1週間保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の量等は記録として残し、その方に合った量や形態で提供できるよう配慮している。また、食事・水分量の低下やむせ込みなどが見られる場合には訪問看護師や医師と連携を図りながらトロミ材やムース食なども考え、ご家族様と話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身でケアが行える方であっても、必要に応じて仕上げ磨きを行ったり、適宜訪問歯科医を入れ、口腔内の確認を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介助によりトイレでの排泄が可能な方であれば、おトイレでの排泄を促している。また、立位等不安定な方についてはスタッフ2名で対応にあたる。排泄チェック表にて排泄のパターンが一目で解るよう工夫している。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を原則としています。見守り体制で目を離さないよう、管理者や清掃スタッフも協力しています。夜間、早朝のトイレ誘導時は転倒防止を第一にしています。退院した利用者が、支援によりトイレに行けるようになった例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤に頼らず自然排便が促せるよう、牛乳やヨーグルトなどの導入、運動や散歩を促している。また、自身で体を動かすことが困難な		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則入浴は週に2回以上、午前中となっているが、ご希望がある場合は極力対応を行っている。また、ゆず湯等、季節感を楽しんでもらえるように配慮している。	入浴は午後から午前に変更し、手厚い見守り体制としています。個浴用の浴室で、利用者の体位の安全を確認しながら入浴介助にあたっています。個々に応じて必要により2人介助の対応もしています。お湯は毎回入れ替えて清潔を保っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	これまで生活してきた習慣を大切に、ご本人様のご希望を尊重するよう適宜対応を行っている。また、温度や湿度の管理にも留意し、衣類についてもその方に適したものを着て頂くよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅療養管理指導による薬局との提携により、医師の往診時の同行をお願いしている。また、随時服薬に関する事は薬局に連絡し、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の趣味などを聞き取り、継続して行えるように支援を行っている。また、立ち上がりや困難な方に関しては、自席で行える作業のお願いやレクリエーションの提供を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	ゴミ捨てや洗濯物干しのお手伝いの働きかけを行い、外気に触れる機会を作っている。また、施設の外周などをスタッフと共に行い、季節感を感じられるよう支援を行っている。	コロナ禍により、買い物や遠出、家族との外出は中止しています。現在は事業所近辺を2周ほどの散歩で外の空気に触れています。庭のデッキに準備したベンチで外気浴し、全員が五感を感じられるようコロナ禍でも工夫しています。日々のごみ捨てなどでも外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の強い希望があれば、金銭の持ち込みを許可している。また、適宜確認を行っている。現在お金を使用する事はないが、ハンドバックなど側に置いておくだけで安心できる方についてはご家族様と話し合いの上柔軟に対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話のお持ち込みも可能とし、施設内の電話についても時間を問わずお取次ぎを行っている。また、郵便物に関しても届いたものを読めない方に対しては許可を得て代読している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掲示物は季節感を感じるものを主体とし、お客様と一緒に作成する事によって愛着を持って頂くように配慮している。トイレや浴室に関しては不要なものを目に入らないようにし、落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している。	共用スペースのリビングは明るく、壁には、手作りのカレンダーやペットボトルのカラフルな模様をデザインした大きな作品などが映えています。リビングに隣接した和室では、テレビ視聴や作業もでき、くつろいで過ごせる場所となっています。クリーンスタッフがおり、清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	適宜席替えを行い、お客様同士の相性を見ながら柔軟に対応を行っている。また、お一人で過ごす事を希望される方に対しても、お一人席を置き、対応を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居の際にはこれまでの馴染みの品を持ってきてくださることを提案し、居心地よく過ごして頂けるように配慮を行っている。また、ご希望がある場合は仏壇や遺影のお持ち込みも可能としている。（火気は禁止）	居室には一人ひとりの生活スタイルに合わせてタンスやテレビなどを持ち込んでいます。にぎやかに家族やペットの写真、ダイビングの写真などを飾り、落ち着いた雰囲気としています。明るい空間づくりの部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアや廊下には手すりを付け、トイレ・浴室も安全に配慮した作りになっている。ご本人様の状態に合わせ、廊下の歩行を行って頂いたり付き添いながら自立の手助けを行っている。		

事業所名	ツクイ横浜大久保グループホーム
ユニット名	ひだまり

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ツクイ横浜大久保グループの基本理念に掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	さつき台自治会に加入し、地域の催し物には積極的に参加している。 また、新型コロナウイルス感染前までは2ヶ月に一度の運営推進会議を行い、地域のイベント情報や、ホームの現状を報告する等交流を行っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入所の相談のみでなく、介護全般の相談にも答えている。 必要に応じては、他施設の案内等、親身になって相談を受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症就航前までは、奇数月に実施し、積極的に意見を取り入れ、地域に受け入れられるよう話し合い、交流を深めていた。現在は書面開催となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認定調査の立ち合い、区からのボランティアの訪問、運営推進会議への参加等で連絡を取り合い、施設の現状や取組みについて伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な委員会の開催、毎月の研修会等で全職員への周知を図っている。また、運営推進会議等でも参加者に取り組みを伝え、ご意見を頂くよう留意している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な委員会の開催すると共に委員会を設置しメンバーが中心となって問題点を話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修や会社主催の研修への参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に丁寧に説明し、理解、了解を得ている。また、定期的に契約書の見直しを本社主体で行い、変更事項については同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月ご家族様へ様子報告のお手紙を送付し、機能低下等もありのままに伝えるよう留意し、ご家族面会時には、ご意見、ご要望を直接伺えるよう留意している。また、直接管理者に伝えられるよう電話番号をお知らせし、24時間対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談を行い、事業所の改善点等を聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な面談を行い、事業所の改善点等を聞く機会を設けている。個々の望む将来の展望や姿を把握し、支援できる体制を全社的に作っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社が主体となり、様々な研修の機会を設けている。スタッフは自分の興味のある研修を受けられる環境が整っており、スキルアップを図れる仕組みが確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は交流の機会なし。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、ご家族、ご本人の希望、不安の聞き取りを可能な限り丁寧に行い、ケアプランに反映させることで、全職員と信頼関係が築けるよう留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に丁寧に聞き取り、アセスメントし、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	生活歴、既往歴、身体状況を把握するとともに、ご家族、ご本人からの要望、意見を丁寧に聞き取りアセスメントし、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人が、ご自身で出来る事を見極められるよう日々様子観察を行っている。生活リハビリとなるような洗濯物たたみや食器拭き、掃除等は、ケアプランに組み込み、積極的にお手伝いして頂けるよう声掛けし、実施していただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話連絡等で、現状を報告、相談しながら、ご本人への理解を深める職員と共にご入居者を支えていただいていることを理解していただけるよう留意している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	生活歴やご家族のお話を元に、情報収集し、談話、傾聴の際は、話題にするよう留意している。また、ご友人の面会等も積極的に促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	常時関係性を把握し、その日、その時の状況を見極め、座席の移動やスタッフの介入を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も書類発送時には、必ず手書きの手紙を添え、気軽にいつでもホームを訪ねてもらえるよう配慮している。実際にご家族が顔を見せてくださることもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	パーソンセンタードケアをスタッフ全員が心掛け、聞き取りが出来ない入居者様からのご要望、ご意向については、ご様子、仕草から把握出来るよう努めている。ご家族ご面会時にも、ご要望、ご意見を伺い、ご本人の思いに添うよう留意している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に把握するだけでなく、日々のご様子やご本人、ご家族との会話からご本人にとって安心できる生活環境等を継続的に提供出来るよう、職員全員で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化のある入居者様のご様子を把握、情報共有することで、柔軟に対応し、その日、その時の心身状態、能力に応じたケアを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで話し合い、モニタリングを実施し、ケアプランに反映している。また、居室担当者を制定し、日々のケアについての課題、ケアプランの変更等について相談、反映している。ご家族、ご本人からのご要望、ご意見についても聞き取り、反映している。必要時は、随時ケアプラン変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々介護記録は、個別に入力している。介護記録から、ニーズの変化を把握するよう努め、職員と情報共有、カンファレンスしながら記録が必要なケアの実践に繋がるよう努めている。記録はタブレットで施設職員間で共有できる仕組みとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外泊や外出は新型コロナウイルス感染症の状況を見て対応、ご面会についても面会時間は現在15分以内としているが、感染症流行前は24時間体制で行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染症流行前までは、運営推進会議に民生委員、自治会長、町内会長、ケアプラザの職員等を招き、積極的に意見交換・情報交換を行っていた。感染流行後は書面開催となっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みのかかりつけ医を尊重している。また、かかりつけ医のない入居者様には、訪問往診医を紹介している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回、定期的に訪問看護を受ける際、書面、口頭で情報共有している。また、緊急時にも24時間体制で対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーと積極的に電話相談や面談を行い、状態の把握及び施設内での受け入れ態勢を整えている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、ご家族、管理者、計画作成担当者との今後の見通し、およびご家族のご意向、施設で対応出来る事当を話し合い、ご本人にとって最良の環境で穏やかに過ごす方法の模索を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修等で繰り返し伝えるとともに、マニュアル等を整備し、周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練の開催やマニュアルを整備し、スタッフに周知している。また委員会を設置し、備蓄品や消防訓練等の計画を立てている。地域の自治会との連携も図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格尊重とプライバシーの確保については、研修で周知を図っている。日々の声掛けやケアについては、スタッフ間で注意、意識しあってプライドを尊重し、プライバシーを確保するよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人との信頼関係を構築し、声掛け、傾聴することで話し易い環境を整え、思いや希望の表出を促している。また、自己決定しやすいような声掛けを心掛けている。発語出来ないご入居者様には、様子観察、仕草から思いを汲み取れるよう情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々その時、その時でご様子を把握、お声掛けし、ご本人のペースで過ごして頂けるよう留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の更衣介助時は、出来る限りご本人に衣類を選んでいただいている。起床後の整容については、出来る方はご自身で、ケアが必要な方については、お声掛けしながら、支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご入居者様おひとり、おひとりの嗜好を把握しながらも、楽しい雰囲気食事が摂れるよう座席に配慮したり、お声掛けしたり、留意している。片付けは、ご入居者様に積極的に手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を表記し、日々把握している。食事摂取時は、様子観察し、咀嚼、嚥下状態を把握し、状態に合った形態で提供するように留意している。体重の増減にも注意し、往診医と連携しながら、食事量等を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは、ご本人の能力に応じて実施している。月2回の訪問歯科往診で、職員全員がご入居者様の口腔内の状態を把握し、適切な口腔ケア介助が出来るよう努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの自力排泄の継続を目標とし、排泄表から排泄パターンを把握し、タイミングよくお声掛け、トイレ誘導するように留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘による腹痛だけでなく、気分不快、不穏となることもあることを理解し、歩行練習やストレッチ体操、ラジオ体操等身体を動かす機会を提供している。便秘がちな入居様様については、往診医と連携し、下剤による排便調整も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は設定しているが、ご本人の体調、ご希望に合わせて入浴出来るよう配慮している。ゆっくり入浴していただけるようにお声掛けにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の睡眠リズム、生活習慣を尊重し、その日の体調にも配慮して、日中適宜休息していただいている。夜間眠れない様子がみられる時は、フロアでスタッフと談話したり、温かい飲み物を提供したり落ち着いて眠りに着けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	提携薬局、医師と連携し、薬の理解に努めている。服薬時は、飲み込むまで個別に確認している。錠剤がのみ込みにくい様子がみられる時は、医師、薬剤師と相談し、形状を変更している。薬剤変更時は、様子観察を丁寧に行い、医師、薬剤師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴を把握し、趣味の継続、生活リハビリの継続を図り、張り合いのある生活、達成感のある暮らしが営めるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候に応じ、庭に出たり、施設外周を歩いて気分転換を図っている。 また、洗濯物の取り込み、ゴミ捨て等積極的に働きかけ、共に助け合って生活している自覚が持てるよう支援している。家族面会時の散歩、外出は、積極的に促している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	常時施錠をしておらず、一人で買い物に行けない環境のため、基本的に金品の持ち込みはご遠慮いただいているが、持っていることで安心する方については、ご家族了承のもと、手元に置いていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族了承の元、ご本人が望むときに電話を架けられるよう配慮している。自ら架けられない方には、希望に応じて介助している。また、ご家族からの手紙等の返信についても、ご家族了承の元、可能であれば一緒に書くよう配慮している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア全体の温度、湿度は常に確認し、適温、適湿となるよう配慮している。夜間は、入眠時間が異なるため、安眠できるようテレビ、CDの音量、照明に配慮している。常に整理、整頓し、危険なものが目に入らない様、手に取れない様注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人の希望に応じ、居室でのんびりしていただいたり、食席に配慮するとともに、時には席を替わっていただき、おしゃべりを楽しんでいただける環境となるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居時、ご本人の馴染みの物を持参いただくよう、願っている。また、その都度ご家族と相談しながら、危険がないよう配置にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア・廊下・浴室・トイレには手摺りを設け、安心して安全に歩ける環境を提供している。また、テーブルの高さや椅子にクッションを置いたり、個々の体格、姿勢に合わせたポジショニングとなるよう支援している。		

2021年度

事業所名 ツクイ横浜大久保グループホーム

作成日： 2022年 2月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する
1	2/ 4/ 5	コロナ渦になってから、地域住民との交流が途絶えている。	感染症の状況を見ながら、運営推進会議や、地域の催し物等に参加し、交流を深め、以前のような風通しの良いお互いで支えあう関係作りの再構築を目指す。	ご入居のお客様の健康管理や、ご家族様への周知、ご理解を頂く。 同時に面会の再開等も視野に動いていく。	12ヶ月
2	13	現在感染症の防止の為、外部研修を控えてもらっており、月に一度の社内研修しか行っていない。	一人一人のキャリアアップとケアの質向上、ひいてはお客様の満足度の向上の為、感染症の状況をみながら外部への研修や資格取得を推進していく。	資格取得の支援を行い、面談を行いながら目標の設定および途中経過の聞き取り、問題点の洗い出し、目標の再設定等を行って行く。	12ヶ月
3	20	蔓延防止等緊急措置期間中は、お看取り対応の方以外はガラス越しの面会及び外出の自粛、外出後の居室対応期間を設けており、ご家族や知人が気軽に尋ねたり、外出する事が出来ていない。	感染症の状況を見ながら、感染症の予防策を講じ、直接面会や短時間の外出の機会を模索していく。	蔓延防止等緊急措置が解除されたら、まずはマスクをした上での10分以内直接面会の解除を試みる。ワクチン接種の確認、面会者の体調管理等にも配慮する。	12ヶ月
4	31 ～ 34	医療連携の目的で訪問看護ステーションを利用しているが、緊急性が高いケースとそうでないケースの見極めがスタッフで出来ず、連携がうまく図れていない面がある。	スタッフ一人一人が個々のお客様の状況を把握し、適切に医療に繋がれる事ができるように育成する。慌てず対応し、冷静な判断が出来るように支援していく。	ケースカンファ、緊急時の対応一覧の整備及び周知。 看護師によるカンファレンスの開催も時間を調整しながら働きかけ、互いに気持ちよく働ける環境作りを目指していく。	6ヶ月
5	35	開設17年を超え、施設内外の老朽化が見て取れる。	安心・安全・快適な施設運営を目指す。施設ハード面、ソフト面の問題点を洗い出し、改善を図っていく。	ウッドデッキの補修は昨年終了。外壁の看板の撤去。庭の整備、カーテンレールの補修等、少しずつリニューアルを目指し、お客様が笑顔で過ごせる住環境を目指す。	12ヶ月